

てとてをつないで

朝霞市立朝霞第七小学校
道徳部
平成31年4月8日(月)

1学期を迎えて

平成30年度の幕が開け、いよいよ特別の教科道徳（道徳科）がスタートしました。教科化されたことで何が変わるのでしょうか。

変わること

- ① 教科書を使うようになりました。これまでの道徳の時間では、各出版社が発行している副読本、文部科学省や各自治体が作成した資料、あるいは、自作資料などを用いて授業展開をしてきました。教科化となったことで主には、文部科学省の検定に合格した教科書を選び、これを用いて授業を行うこととなります。
「教科書で教える」という形ですが、子どもたちの真の学びのために、教科書以外にも様々な教材を開発・活用していきます。
- ② 評価があります。通知表にも、道徳科の評価欄が設けられました。数値評価ではなく、記述での評価を3学期にまとめて行います。

変わらないこと

教科になっても、日常の生活体験と深く関わり合いを意識しながら、教育活動全体を通して学んでいくことは変わりありません。単なる技術の習得とか、知識の獲得が目的ではないのです。人としてよりよく生きるという、ある意味、教育全体の最終ゴールを担う重要な教科です。ですから、「特別な教科」なのです。

ヒントになる題材は方々に

今月1日付の読売新聞の編集手帳では、小学校で道徳が教科になったことが書かれていました。一部を紹介します。

子どもの無垢なる問いかけにたじろぐことがある。「人数の多いほうが正しいってどうして言えるの」「正義のヒーローは悪者を殴っているの」「ついていい嘘とついていけない嘘って」◆『答えのない道徳の問題 どう解く?』（ポプラ社）では、著名人が自分なりの答えを披露している。例えば谷川俊太郎さん。〈嘘と本当を黒と白みたいに、正反対なものとしてとらえるのは単純すぎる〉◆回答の向こうに、それぞれの来し方が透けて見える。個々の内面的な原理として働く道徳を、どんなふうに教えるのか。今春から小学校で道徳が教科になった。国語や算数と同様、教科書を使い、評価もする◆現場では戸惑いの声も聞かれよう。けれど、ヒントになる題材は方々にありそうだ。～略～

日常の生活体験と深く関わり合う教科だからこそ、ご家庭でもぜひ「答えのない道徳の問題」について、お子さんと話してみてください。学校と家庭が連携して子供達に豊かな心を育てていくことを心より願っています。